**令和４年度の取組み実績について**

資料「令和４年度の取組み実績について」説明します。

資料の中身は令和４年度の主な取組みの進捗状況をお示ししたものです。

まずは、「民間事業者のアイデアを活用した普及啓発」として６点記載しております。

１点目は、４コマ漫画による普及啓発についてです。

ユニバーサルデザインに関する知識や関心が薄い人達にもわかりやすい４コマ漫画（4種類、英語訳付き）を制作し、様々な媒体を用いて、普及啓発を実施しました。掲載媒体として、新聞、Webサイト、テレビコマーシャル等を活用し、ユニバーサルデザインに関する普及啓発を行っております。

２点目は、「ユニバーサル都市・福岡」ＰＲサポーターによる普及啓発についてです。

令和３年度に引き続き、ユニバーサルデザインのことをより多くの市民に知っていただくために任命したＰＲサポーターの、男女５人組ダンス＆ボーカルグループ「バリカタキッズ」に、市内の様々なユニバーサルデザインを取材してもらい、その様子を福岡市の公式YouTubeチャンネル「福岡チャンネル」に掲載し、YouTube、インスタグラムで発信しました。

３点目はSNSを活用した「＃ユニバーサル都市福岡」投稿キャンペーンについてです。

市内にあるユニバーサルデザインを探して写真に撮り、「＃ユニバーサル都市福岡」を付けてSNS（インスタグラム又はツイッター）等で投稿するキャンペーンを実施しました。

４点目はパネル展示イベントについてです。

４コマ漫画をはじめ、各企業の取組みなど、ユニバーサルデザインの普及・啓発につながるパネル展示を行うとともに、「ユニバーサル都市・福岡」のロゴをデザインしたカップを用いてドリンクサービスをソラリアターミナルビル１階ライオン広場において実施しました。

５点目はラジオ企画についてです。

ラジオ番組「Top of the Morning」内で、全４回にかけて市内の企業・団体等のユニバーサルデザインに関する情報を発信しました。

６点目は「ユニバーサル都市・福岡」公式インスタグラムの活用についてです。

令和２年度開設した公式インスタグラム（@universal\_toshi\_fukuoka）を活用し、福岡市の取組みの紹介や、４コマ漫画に関する投稿に加え、AHA動画（画像が徐々に変化し、いつどこが変わったのかを見つける動画）を制作し投稿しました。

次に、「ユニバーサル都市・福岡」児童向け副読本の改定について記載しております。

主に小学４年生向けの、ユニバーサルデザインを学ぶための教材（平成25年度制作）について、時代に見合った内容にアップデートするため、有識者で構成される改定委員会（全３回開催）からアドバイスをいただきながら、全面改定を検討しております。

使いやすさ、共有のしやすさ、デジタルツールへの依存性の少なさ、情報保障の観点から総合的に勘案して、副読本の改定後の形は、Webサイトとすることとし、令和６年度に改訂版を運用開始する方針としております。

続いて福岡版ユニバーサルマナー検定の実施について記載しております。

令和２年度・３年度に引き続き、高齢者や障がい者への接し方・配慮のポイントなどについて学ぶことができる福岡市オリジナルの講座「福岡版ユニバーサルマナー検定」を実施し、全３回、計８２名の方が受講されました。

続いて市職員研修（ｅラーニング）の実施について記載しております。

ユニバーサルデザインの考え方や「ユニバーサル都市・福岡」について、市全職員を対象としたｅラーニングを実施しました。職員のユニバーサルデザインの理解度向上につながるよう、伝わりやすさの工夫など、手法も含め、しっかりと検討を行い、来年度も継続して実施する予定としております。

この後に、成果指標について記載しております。

「ユニバーサルデザインの概念の理解度」、「ユニバーサルデザインの取組みへの評価」、「ユニバーサル都市・福岡のロゴマークの認知度」の成果指標において、すべて長期的には上昇しておりますが、単年度で見ると、令和４年度は昨年度より低下しております。

最後に参考としまして「令和５年度当初予算案の概要（福岡市財政局作成）」より抜粋して、事業一覧を記載しております。

１ページ目に、「安心して生み育てられる環境づくり」というテーマで、「多子世帯への支援」として、「第２子以降の保育料を要件なく無償化」「第２子以降の産後ヘルパーの利用回数を倍増」「子育て世帯住み替え助成を拡充」といった事業が記載してあり、次に「すべての子育て家庭への支援」として、「おむつと安心定期便の開始」「子ども医療費の助成対象を高校生まで拡大」「産前産後ヘルパー、産後ケアの利用料を大幅軽減」「学校・保育所等の給食費物価高騰分を支援」といった事業が記載してあります。

次に、「サポートを必要とする子どもたちのために」というテーマで、「障がいのある子どもの支援」として、「障がい福祉サービス利用料を大幅軽減」「医療的ケアが必要な児童生徒への通学支援」をはじめ、「子ども食堂に対する助成の拡充」「小学５年生から中学３年生の習い事を応援」「親子の愛着形成を促す宿泊・通所プログラム」「親子ショートステイによる子育てサポート」「不登校児童生徒等へのオンラインによる支援」といった事業の説明が記載してあります。

２ページ目に、「教育環境の充実」というテーマで「学習指導員を配置し1人ひとりに寄り添った学習を推進」「中学、高等学校に部活動指導員等を大幅増員」といった事業が記載してあり、次に「何歳でもチャレンジできるまち」というテーマで、「人生100年時代に向けた福岡100を推進」「介護人材確保の取組みを推進」「まち中で自然と体を動かすFitness Cityプロジェクト」「女性の健康問題に着目した運動習慣の定着」「予防に重点をおいて全世代の歯と口腔の健康を守る」といった事業が記載してあります。

また、「誰もが安心して暮らしやすいまち」というテーマで「インクルーシブな環境づくり」として、「認知症フレンドリーシティの拠点開設」「誰もが自分らしく遊べるインクルーシブな子ども広場整備」「重度障がい者等がICTを活用し自宅で就労できる取組み」「重度障がい者等就労支援の制度の拡充」「障がい者の工賃向上を支援」といった事業をはじめ、「民生委員をサポートする支援員を全市展開」「防災をきっかけとした地域活動メニューを提供」「野良猫・多頭飼育の猫の不妊去勢手術支援」といった事業が記載してあります。

以上が資料の説明となります。